

このシリーズでは、平成21年度川越市人権教育実践報告会で発表した小中学生の人権作文を紹介いたします。

アイヌ民族について学んで考えたこと③

高階中学校 一年

二〇〇八年、政府はアイヌ民族を先住民として認めました。たくさんアイヌ民族の人たちが長い間努力してきて、やっと認めてもらえたのです。

しかし、まだ差別は消えてはいま

せん。アイヌ民族は、自然の恵みに感謝してきた民族です。とても強い心を持った民族です。だから、今守っているアイヌ民族の文化が認められ、そして強い心と誇りを持っている民族の人たちが二度とつらい思いをしないような世界になってほしいです。

私も北海道で生まれ、三年間北海道で育ちました。私は北海道が大好きです。たとえ、アイヌ民族の一員でなくても、今でも残っているアイヌ民族の差別をなくしたいと思えます。そして、アイヌの文化が守られるような世界に一步でも近づけるようにがんばっていききたいと思いま

す。  
母にその話をしたら「私も北海道が大好きだよ。いっしょに勉強したアイヌの人たちのことも好きだったよ。だから、アイヌ人たちが文化をみんなで守っていかねければならぬ」と思っているよ」と言っていました。これからも母にいろいろな教えてもらいながら自分としてできることを努力していこうと思えました。

(終わり)

冬に流行する子供の感染症

保健予防課 227-5102

けんこう いんぷお

感染症は、主に飛まつ・接触などにより病原微生物が体内に入り、増殖することによって起こります。冬季に子供がかかりやすい感染症のうち、代表的なものは下記の3つです。乳幼児の場合、病状が急変することがあるため特に注意が必要です。

感染症予防・感染拡大防止のために、日ごろの手洗い・うがい・咳エチケットを実践することを心がけましょう。

①感染性胃腸炎(ウイルス性胃腸炎) …潜伏期間1~3日

ロタウイルスやノロウイルスなどが原因。ロタウイルスは3歳未満が中心ですが、ノロウイルスは大人も感染します。

症状…発熱、吐き気・嘔吐、下痢(黄色より白色調であることが多い)。ロタウイルスは5~6日、ノロウイルスは1~3日程度続きます

②インフルエンザ…潜伏期間1~7日

乳幼児だけでなく、10歳代にも多く発症。発症後48時間以内に服用すれば、症状の軽減と、期間の短縮ができる薬があります。

症状…突然の高熱、のどの痛み、鼻水、悪寒、頭痛、筋肉痛など。3~4日程度続き、約1週間ほどで良くなります。

③RSウイルス感染症…潜伏期間2~7日

1歳未満に多く発症。感染力が強く免疫ができにくいいため繰り返し感染します。年齢が上がるにつれて症状は軽くなります。

症状…発熱、鼻水、せき、ゼーゼー・ヒューヒューという呼吸音、呼吸困難。7~12日程度続きます。

川越電気鉄道の歴史

明治39年開業、県内初の路面電車。川越久保町駅(現在の中央公民館付近)一大宮駅間を55分で走っていました。約13キロ、その間に13停車場。市内には5停車場。昭和15年に営業を中止しました。



レンガ製の橋脚の一部が残っています



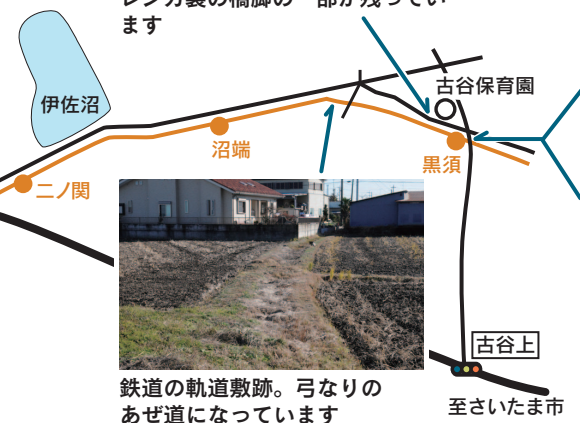
昔の黒須停車場付近



鉄道の軌道敷跡。弓なりのあぜ道になっています



現在の様子



# 短歌・俳句・川柳

文化振興課 224・6157

川越市民憲章には、「文化の香りたかいまち」という言葉があり、市民の皆さんの芸術・文化活動を応援しています。

正月は、日本の伝統的な文化に触れることができる時期。ここでは、昨年開催された市民文化祭の、短歌・俳句・川柳大会で入選した作品の一部を紹介します。

## 短歌

エレベーターの防犯カメラが首を振り一人のわれにピントを合わす 毛利真之(中原町二丁目)  
電車にて遠足帰りの一年生そろって右に傾き眠る 小野豊子(かすみ野三丁目)

母の日に子より贈られし自転車初乗りとする朝日を浴びて 笹気和枝(菅原町)

炎暑去り巡りの木立ち影深む逝きし息子を思はぬ日なし 奥富なか(増形)

変わりゆく世に馴染めず老いてゆくパソコン携帯すべてが無縁 水村浅子(的場)

## 俳句

ベランダに鳩の来てゐる初句会 浅見芳枝(旭町三丁目)

お多福の小鉢楽しや女正月 榎本美代子(元町一丁目)

初詣赤くにぎわうたるま市 鈴木芳治(小中居)

高き凧揚らぬ凧もお正月 中島さだ子(かすみ野一丁目)

齋打つオール電化の厨かな 横溝幸子(霞ヶ関東二丁目)

## 川柳

町医者が後期高齢者であふれ 中沢芳生(今成四丁目)

留守らしい郵便受けが溢れてる 時枝利幸(今福)

肌合いが好かれずなり婿養子 米谷紀好子(連雀町)

ほんとうに聞こえて欲しい独り言 大森菊江(西小仙波町一丁目)

温暖化こんな世界に誰がした 小川正夫(神明町)



## 川越再発見

今回出かけたのは「川越電気鉄道」  
～軌跡を訪ねて、出発進行！～

城下町として栄えた川越と門前町・宿場町として栄えた大宮を結んでいた川越電気鉄道。名前を聞いて、ピンとくる人も少なくなっただけかもしれません。廃線から70年を経過し、痕跡もほとんど見られなくなった同鉄道の、面影をたどってみました。



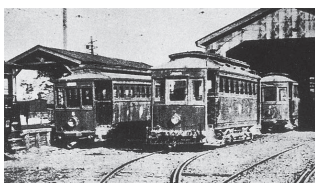
大正13年ころの川越久保町駅



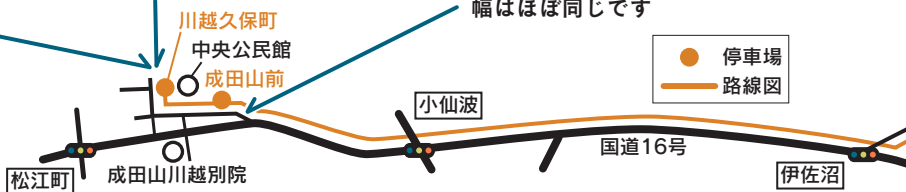
川越久保町駅があったことを伝える看板



現在の道路はかつての軌道敷。幅はほぼ同じです



昭和15年ころの久保町車庫



当時、黒須停車場に接していた荒川土台の土留め用の間知石(けんちいし)。縦×横約30センチ・奥行き約55センチの四角錐形。大人2人でも動かすのがやっとの重さ(市立博物館所蔵)



実際に線路に敷かれていた枕木。215センチほどの長さ。犬くぎの跡があります(市立博物館所蔵)